

## 第2章

# 市民から見た人吉の風景の価値と 今後の課題

風景には、そこに暮らす市民の美意識や価値観が強く映し出されます。そして、それらが多くの市民に共有されているものであれば、これからの風景を創り出していく大きな力となります。

そこで、本章では市民の皆さんとの協働による調査検討作業の中から見出された人吉の魅力的な景観資源、これからの取り組みに向けた意気込みや心配に感じていることを整理します。そして、そこから今後取り組むべき課題や、重点的な取り組みを行うべき場所を選ぶ考え方を導きます。

2-1	大切にしたい風景 .....	26
2-2	風景に対する市民意識 .....	30
2-3	風景の診断 .....	32
まとめ	現地調査、アンケート、ヒアリング調査等から導かれること ...	33

## 2-1 大切にしたい風景

### 1. 市街地の風景

市民アンケート（注①）によると、中川原公園を含む球磨川、青井阿蘇神社、人吉城跡の3つが普遍性の高い資源と感じており、静かで落ち着いた雰囲気大切にしたいと感じています。景観資源調査（注②）においては、歩行者目線で捉えた歩道や橋からの遠景、歴史を感じさせる街区や建物、構造物、日常的な風景でありながらその地区の個性を感じさせる景観要素が挙げられました。

#### A 球磨川の風景



#### B 青井阿蘇神社の 風景



#### C 人吉城跡の風景



#### D 歩行空間から見る 風景



#### E 歴史をしのばせる 風景



#### F その土地の独特な 世界を感じさせる 風景





図 2-1 市街地の景観資源の位置

またアンケートや景観資源調査に先立って行われた研修および景観計画等策定審議会では、人吉への来訪者の目に映る風景の重要さが指摘され、次に挙げるように、特に球磨川を軸とする風景の価値が重ねて確認されました。

- 人吉に車で来ると、自分がどこに居るのかわかりにくい。しかし、中川原の見える所まで来ればそれを知ることができる。つまり球磨川が最大の目印である。
- 八代経由で来る外国人訪問者にとっては、「球磨川をさかのぼった所が人吉である」という情報はわかりやすく、広域的に見ても球磨川が案内役を果たしうる。
- 球磨川に架かる橋を軸として多数の景観資源が概ね歩行圏内に分布していることが明瞭（図 2-1）であり、来訪者が歩いて楽しめることが人吉の風景の大きな強みである。

## 2. 郊外の風景

市民アンケートによると、川沿いや田園地帯において水や緑が豊かな風景に共感を覚えることが多いようです。景観資源調査においては、歴史的な価値があるものや、石橋や石積みなど人の手の痕跡が感じられるものが周囲の自然と調和している風景が重要なものとして挙げられました。また集落周辺では生活がにじみ出ている風景、特に水路まわりの風景が挙げられました。

### A 悠久の自然を感じさせる風景



1



2



3

### B 歴史的遺産と自然が調和する風景



4



5



6

### C 暮らしが読み取れる風景



7



8



9

### D 川のある風景



10



11



12

### E 田園の風景



13



14



15

### 3. 眺望される風景

紅取丘公園の展望所や風致地区の頂上部からは、広角的に人吉の風景を眺望できます。このような場所に立つと、ふだん自分が暮らしている場所が小さいながらも大きな風景を形づくる重要な要素であることがわかります。この時、この風景を縁どっている山々の稜線と全体を貫くように走る球磨川の軸線が人吉の風景の骨格を成していることがよくわかります。



16 紅取丘公園の展望所から望む

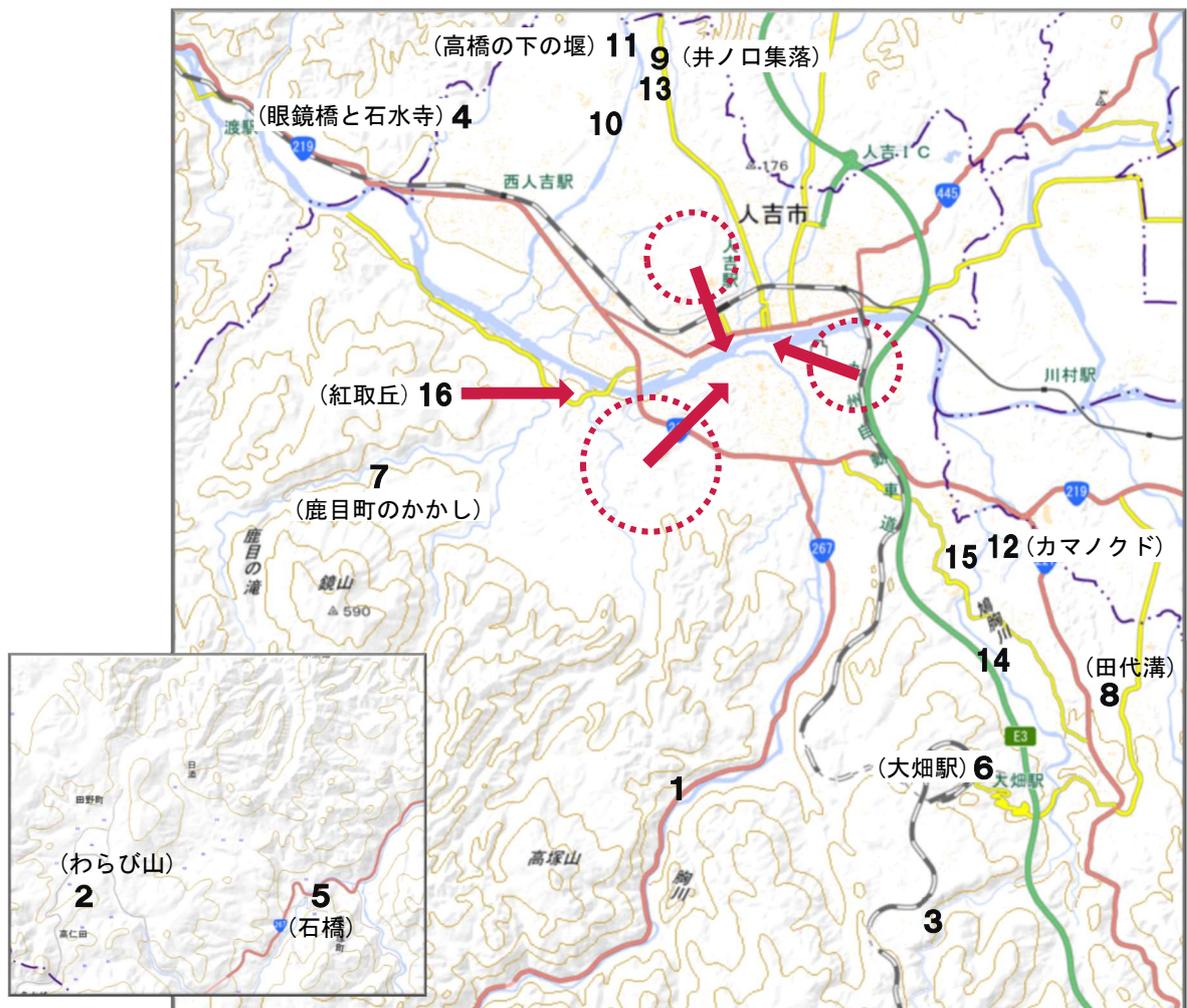


図2-2 郊外の景観資源及び眺望点の位置

## 2-2 風景に対する市民意識

### 1. 人吉に暮らす市民の声（市民アンケート調査より）

アンケート調査からは、次のような風景に対する価値意識や関心の対象、今後の取り組み方に対する提案内容を捉えることができました。

#### ○風景に対する価値意識

「好きな風景」は川沿いの風景の回答が約7割、次いで「田園地帯」となりました。「人吉の風景の印象」は「水や緑豊かな風景」という回答が多く、次いで「のどかな」「歴史あふれる」が挙げられました。季節感を感じる樹木として城跡、龍生園、村山公園などの「桜」、草花としては「蓮」が多く挙げられました。

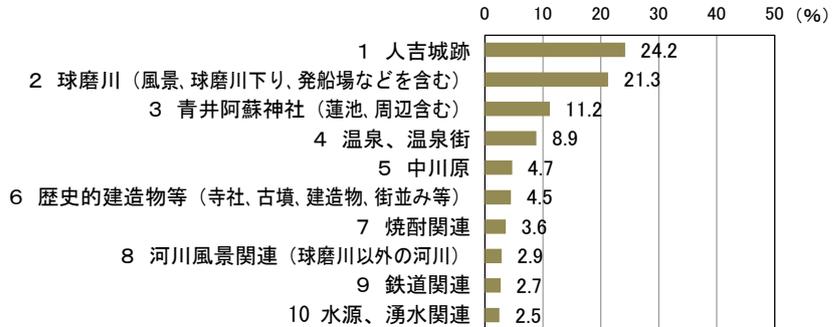


図2-3 大事にしたい風景

#### ○市民として、「景観」について関心を持っていること

風景の現状について、空き家、空き地、手入れされていない農地や山林の状態に強い危機感を抱いていました。一方、風景が向上することで、訪れる人の人吉に対する印象が良くなり、観光や商業などサービス産業に有利になる効果を指摘する回答が多数でした。観光資源として大事にしたい風景は、城跡と球磨川が高い回答を得ました。

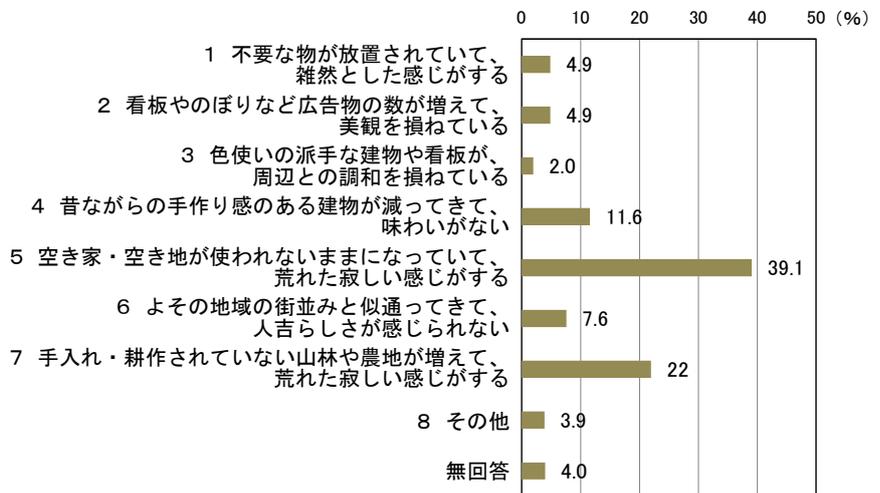


図2-4 風景の変化で気になること

#### ○風景を良くする上で、街全体で取り組むべきこと

市民にできることとして身のまわりの美化、地区単位の活動が挙げられました。専門家が取り組むべきこととして、人吉ならではの伝統的な工法や素材を活かしたものを作りたいという意見が多数ありました。行政に期待することは、公共事業や技術者育成、風景維持のルール、市民が学ぶ場づくりなどが挙げられました。

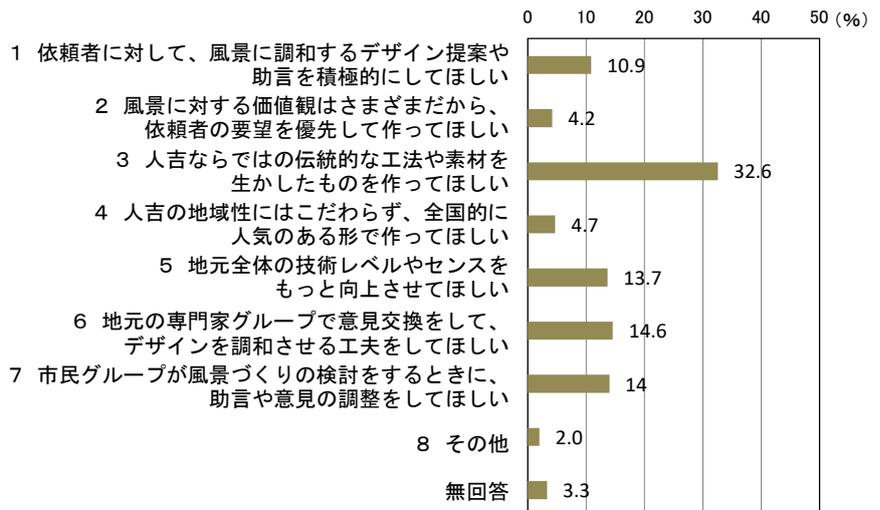


図2-5 専門家に期待すること

#### まとめ

- 水辺の風景や緑豊かな田園風景は市民にとって大切な景観資源です。
- 桜や蓮など歩いて楽しめる自然から人吉の四季を感じることができます。
- 建物や農地などの社会基盤の今後の更新が課題となっています。
- 観光や地域交流の上でも景観は大切で、その中でも球磨川の美しさは欠かせません。
- 人吉の伝統的な景観を守る上で職人の活躍や育成が望まれます。
- 景観について市民が学び、身の回りの風景を美しくすることが最初の行動と言えます。

## 2. 風景づくりに携わる技術者の声（事業者ヒアリング調査（注③）より）

風景の質を左右する大きな力となるのは、実際に現場で景観要素を作る立場にある建設や造園、看板製作の技術者です。そこで、これらの方々が日頃感じておられることや実践されていることに耳を傾け、その中から景観計画に反映すべき事項を抽出しました。

風景づくりの現場で問題に感じていること

### 風景を作る現場の課題

- 駐車場を作るために庭を壊すことが多く、外構の植樹や緑にも予算を使わなくなってきた。また外部設備に目隠しするなど個々の住宅に街並みへの配慮が必要。
- サイン計画をする場合、近代的な街や企業の案件だと「古風なデザイン」は断られやすい。業者の組合を通して一貫性のあるデザインを促すといった専門家の結束が必要。

### 時代の変化

- 工業流通品が増えて街並みが変わっている。施主の好みに応えようとする、他の地域と似た仕様になり地元材を使うことが減少しがちである。和風庭園も減少している。
- 塗装寿命が短い安い塗替えが見受けられたり、昔の補修材料の入手ができない場合がある。市内の建物の外装は9割が補修を必要とする時期にあり、適切な補修や更新を計画する必要がある。

専門家として、「景観」について関心を持っていること

### 地域性や場の特徴

- マンションの入居者は転勤の方が主で、球磨川の眺望は物件価値を高めてくれるので、眺望のよい敷地であることはとても重要。
- 人吉市内に見られるサインに一貫性や誘導する力がない。新町通りの暖簾を作製してから、統一した暖簾で景観的にまとまることが実感できる。

### 専門家としての助言

- 街路樹の樹種選定の際には、樹種毎の管理上の問題等について提案することができる。
- 外壁などの色選定についても言えるが、時間が経つことで生じる問題、管理の問題には技術者として助言できることがある。

風景を良くする上で、街全体で取り組むべきこと

### 街への働きかけ

- 社会奉仕活動として公衆トイレ等の塗装を実施したことがある。
- 市内の桜の寿命に伴う植え替えの必要性があるので、植木市を主催しソメイヨシノの苗木を植樹（寄贈）している。

### 市民や業者へ景観ルールを広報すること

- 客からの要望があればそれに従うことが多いが、景観について守るべき約束があるのなら、業者も説明や助言がしやすい。各人の意見は様々なので景観ルールの方針を市民に広報する必要がある。

まとめ

（課題）街並への配慮、技術者どうしの結束、街の現代化と地域の個性、更新時期にある人吉

（関心）眺望は人吉の資産、人吉らしい色、素材、デザイン

（取り組み）専門性を生かしたボランティア活動を通じた市民との接点づくり、景観ルールや価値判断をわかりやすく市民に説明できる技術や機会

## 2-3 風景の診断

アンケートやヒアリング調査等の診断作業を通して抽出された課題を、人間の健康診断からの連想から予防、改善、活性化という3つの処方によって整理すると下表のようになります。

表2-1 風景の質を高めるための基本的な処方

処方	基本的な課題	風景の質を左右する具体的な課題			
		地勢的な課題	社会史的な課題	歳時記的な課題	日常的な課題
予防的措置	源流域・水源域の環境保全	 山並みへの眺望維持 水系保護・原生林保護 山頂・山腹構造物の景観配慮	 放置・堆積物の除去 大型プラント・事業所の設置方法 中洲、川べりの灌木管理	 催事案内サインの充実	 鳥の糞害対策
	里山・田園の持続				
	集落の維持		集落・周辺道路の維持	年中行事の継承	池、水場の掃除 水使いのルール
改善的措置	水辺とのかかわり方		水路水門回りの雑草除去 堤防構造物の美観	中川原の利用法 霧を鑑賞する場所	
	人工物の管理		建築土木施設の更新 山並みや川辺の眺望阻害 建物の高さ・大きさ・色の協調性 大型駐車場の美観	祭り関連施設管理	看板・工作物の統一感 商店街振興
	交通動線の改善			訪問者回遊ルート整備	生活道路の安全確保
活性化措置	産業・交流の活性化	植林活動	重要建造物の保護・紹介 耕作地の活用	観光拠点環境整備	
	人々の活躍	重要樹木の保護 山歩き・自然散策	職人技術を生かした風景づくり	案内ルート整備（注⑤） 訪問者へのおもてなし（注⑤） 街路樹や近隣の植栽の手入れ・落葉清掃	個人の庭先美化 ゴミ集積場の美観

### 課題の整理

#### ● 予防が必要な課題

源流域や水源域の環境保全、里山や田園の人々の暮らしの持続、歴史的な建造物や催事の保護

#### ● 改善が必要な課題

人吉を特徴づける水辺空間と人工物との調和、市街地の老朽建造物の更新、伝統的地区の広告物規制

#### ● 活性化が必要な課題

来訪者との交流を通じた経済活動、伝統を守り継承する人材活用と育成、市民の景観に対する意識改革

## 1. 重点的な取り組みの対象となる風景

水辺や川沿いの風景	市民にとって球磨川は精神的な拠り所となっており、そこに集まる支流や水路にも強い愛着を抱いています。
のどかな田園風景	盆地特有の空間の広がりによって、山並みに優しく守られた、落ち着いて安心できる印象があります。山並みの稜線が「風景の枠組み」として強く作用しています。
歴史のロマンを感じられる風景	歴史的な遺産が居住地にも田園にもあり、それぞれ一帯の地区の「風景の核」として存在しています。
昔から続く生活を彷彿させる風景	歴史的な建造物と並んで、昔から継続してきた生活風景が現代の街にうまく溶け込んでいます。(注④)
季節の中で、心がときめく時のある風景	桜や蓮といった四季を彩る植物をはじめ、おくんち祭りのような伝統行事が人吉らしい歳時記的な風景として、市民にも訪問者にも愛されています。
人を案内したくなるルート上の風景	1つの地点のみの風景ではなく、散策しながら眺めたり、鉄道や船等から見たりする連続的に移り変わる風景が大切だと考えています。

## 2. 重点的な取り組みを行う場所の条件

地勢的風景 の視点から	山並みや川など遠方への眺望が良好なことで、「風景の枠組み」が守られていること。また近隣に水辺があることで、市民の心の拠り所である球磨川と水路等で結ばれていること、あるいは川までの良好な散策道があることが望ましい。
社会史的風景 の視点から	中世、近世、近代を問わず歴史的な「核」が存在し、近隣がその雰囲気にもふさわしい落ち着いた風景となっていること。市外からの訪問者がアクセスする道路が同様に良好な風景となっていることが望ましい。
歳時記的風景 の視点から	季節ごとに特徴のある各地の風景や催事が維持され、春夏秋冬を通して来訪者の記憶に残る心地よい情景が創り出されていること。その舞台となる場が日頃から地域住民の手で美しく保たれていることが望ましい。
日常的風景 の視点から	昔ながらの生活道具が現代の生活様式の中で上手に活かされて、その地域独特の雰囲気を醸し出していること。また住民が自分の好きなことや得意なことを楽しみながら、自発的に身の回りの風景の美化に努めていることが望ましい。

次の章では、以上のような市民の想いや関心に対応した場所やエリアを取り出し、今後の取り組み方の基本方針を導き出します。

## 【注記】

注①：市民2000人（無作為抽出）を対象として平成28年8月に実施しました（回答633件）。アンケート調査の設問概要は「付属資料2」に示しています。

注②：市民有志によって平成28年6月2日、6月24日に実施しました。風景の転換点となる橋に着目し、橋を視点場とする景観を撮影し、地図に記録していきました。

注③：景観形成に実務面で日々関わりのある、建設業者、造園業者、塗装業者、看板製作業者、雑誌編集者を対象にして、平成28年5月～10月にかけて実施しました。

注④：現在の人吉市市街地の中には、鍛冶屋町通りのように、鍛冶屋や味噌・醤油醸造所、製茶工場などの伝統的な産業が今なお維持され、それぞれの建物の表情は、そこで営まれている仕事の様子をよく現しています。

しかし、過去における大火も影響して、他にはこの通りのような街並みを形作っている所は非常に少なく、相良700年の伝統をこれからのまちづくりの中でどのように継承していくかが問われています。このため、今後必要となる建物の修理や改造、建て替え等に際しては、日本遺産認定要素を生み出してきた過去に学びつつ、それぞれの生業のこれからのあり方を表現し、新しい街並みを創り出す工夫と努力が求められるでしょう。その時、人吉市内及び球磨郡内に有する石や木材をはじめとする地場産材とそれを上手に活かす人材が活躍することが大きな力になると思われます。

注⑤：観光客(よそからの訪問者)の評価を高めるための方策としては、表2-1に「案内ルート整備」、「訪問者へのおもてなし」が挙げられています。

「案内ルート整備」には、人吉グランドデザインに示された案内板を来訪者の視点から設置していくことが望まれますが、人工的な案内板に頼りすぎることなく、人吉市の景観構造を構成している球磨川本流とそこに注ぎ込む支流・溝(用水路)の流れに着目し、その沿川で気持ちの良い空間を演出することによって、それらの流れが水先案内役となり、自然と足が目的地に向かうように配慮するとともに、これらの流れの沿道や橋詰め(川や水路に架かる橋のたもと)に植栽・植樹を行うことによって、「おもてなし」や「癒し」の空間として活かしていくことが有効と考えられます。

また、相良往還など人吉から各方面へ通じる古道や小路(路地)筋においても同様の配慮を行うことによって、人吉市街地を歩いて回る訪問者に対する「おもてなし」を感じさせることができると考えられます。



景観計画策定ワーキンググループの活動風景